

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼 小中連携	① 3校の取り組みや実態を把握する ② 様々な分掌で定期的な連携の場をつくる	① いずれかの分掌でブロック会を行う。(生徒会・児童会か外国語) ② 管理職や事務職員を含んだ連携会議を開催する。 ③ 北陵ブロックの子どもの実態を分析する。	① 北陵ブロック授業スタンダード案を考える(研究授業等で) ② 1分掌以上で定期的なブロック会を行う。 ③ 小中で子どもが連携している行事を行う。(続けて取り組めるもの)	① 連携が必要な分掌を精査し、定期的な連携ができていく。 ② 北陵ブロック授業スタンダード案を実践した研究授業を行う。
確かな学力の育成	① 語彙を増やし、読み取る力と伝える力の向上を目指す。 ② 学びあい支えあえる集団づくりを目指す。 ③ あきらめずに取り組む生徒の育成を目指す。	① 読み取る力をつけるために→読書タイムの徹底(学校を上げて取り組む。宿題にしない。教師も読む。) ② 伝える力、聞き取る力をつけるために→学びあい活動を授業に組み込むことにチャレンジする。(班で考える時間、学びあう時間をとる)	① 読書タイムにライブラリーアワー(朗読を聞く時間)を学期に1回設定する。(ボランティアによる朗読を追求する) ② 担外も読書タイムに参加する体制を作る。 ③ 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニングの視点)のある授業を追求する。 ④ ユニバーサルデザインの視点での授業づくりを目指す。(視覚教材・ICTの活用を目指す。全国学力調査の分析を踏まえ、北陵中の生徒に必要な学力をつけるための授業づくりを行う。	① ブックトークなどのキャンペーンを行い、それを保幼小に広げる。 ② 授業・学活・総合など図書館を利用し、本に触れる機会を増やす。 ③ 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニングの視点)の実現に向けた校内体制の充実と小学校への発信。 ④ 視覚教材・ICTの授業での活用をすすめる。 子どもを主体にした授業研修を行い、小学校との交流をすすめる。
豊かな人間性を育む	① 仲間やクラスを大切にしようとする 同僚性を高める。 ② 様々な体験から自己肯定感・自己有用感を高める。 ③ 他人を思いやる気持ち、感じる心を育む。	① いのちの学習を中心とした人権学習に取り組む ② 進路学習・職業体験(福祉体験)などキャリア教育の充実 ③ 「障がい者理解」の講演会を全校生徒対象に行う ④ 生徒会によるあいさつ運動を実施する ⑤ 生徒会と支援学級との交流会を実施する ⑥ 班ノート等を通して班を中心とした集団づくり ⑦ 運動会や祭りなど、地域行事への積極的な参加	① いのちの学習を中心とした人権学習に取り組む ② 進路学習・職業体験(福祉体験)などキャリア教育の充実 ③ 「LGBT」の講演会を全校生徒対象に行う ④ 生徒の感性を高める芸術鑑賞会を開催する ⑤ 生徒会によるあいさつ運動を実施する ⑥ 生徒会と支援学級との交流会を実施する ⑦ 班ノート等を通して、班を中心とした集団づくり ⑧ 運動会や祭りなど、地域行事への積極的な参加	① いのちの学習を中心とした人権学習に取り組む ② 進路学習・職業体験(福祉体験)などキャリア教育の充実 ③ 「人権」の講演会を全校生徒対象に行う ④ 生徒会によるあいさつ運動を実施する ⑤ 生徒会と支援学級との交流会を実施する ⑥ 班ノート等を通して班を中心とした集団づくり ⑦ 運動会や祭りなど、地域行事への積極的な参加
健康・体力の増進	① 自らコンディションを整えられるようになる。 ② 自分で目標を設定し、基礎体力・競技の技術力向上を目指す。	① ストレッチやウォーミングアップの仕方や効果について説明し、自ら取り組めるようになる。 ② 授業の初めのウォーミングアップで補強運動を行い、基礎体力の向上を図る。 ③ 教師側で目標を設定し、その目標を目指し努力することができるようになる。	① 全体ウォーミングアップの後の測定前に、時間を取り各自でウォーミングアップ出来るようになる。 ② 補強運動の回数・種類を増やし、基礎体力の向上を図る。 ③ 教師側が設定した目標を達成出来るように、計画的に取り組む事ができる。	① 時間配分を考え、各自でウォーミングアップが出来ようになる。 ② 体力テスト全国平均を上回るよう向上した基礎体力を、しっかり使いこなせるように、体力テストの種目練習に取り組む。 ③ 自ら目標を設定し、その目標を達成できるように、計画することが出来るようになる。 ④ 各競技のルールを理解し生徒たちで試合を運営出来るようになる。
支 援 教 育 の 充 実				

## 2

## 今年度の結果と取組みについて

## (1) 全国学力・学習状況調査

## ○●国語●○

## 国語A

(領域ごと)

## ①話すこと・聞くこと

概ね良好な結果であった。

## ②書くこと

概ね良好な結果であった

## ③読むこと

概ね良好な結果であった

## ④言語事項

概ね良好な結果だった

(問題形式)

## ①選択式

概ね良好な結果であった

## ②短答式

概ね良好な結果であった

## ③記述式

出題なし

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もともと正答率の高かった設問…8二1
- ・もともと正答率の低かった設問…四1
- ・もともと無解答率の高かった設問…8ー3

## 国語B

(領域ごと)

## ①話すこと・聞くこと

概ね良好な結果であった

## ②書くこと

概ね良好な結果であった

## ③読むこと

概ね良好な結果であった

## ④言語事項

概ね良好な結果であった

(問題形式)

## ①選択式

概ね良好な結果であった

## ②短答式

出題なし

## ③記述式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もともと正答率の高かった設問…2二
- ・もともと正答率の低かった設問…1三
- ・もともと無解答率の高かった設問…3三

## 分析

A問題・B問題を通して全体的に、概ね良好な結果であった。段落の意味を問う問題での正答率が高く、文章の内容を読み取る力は定着していると感じた。

しかし、A問題、B問題ともに、無解答率の高さが目立った。この状況を改善するために、グループ学習やペア学習をより充実させ、国語に対する意欲、関心を高めるとともに、基礎学力の定着ができる授業づくりをすすめていきたい。一方で「記述式」に関する結果が良好であることが分かり、今後も生徒が自分の考えをまとめ、表現させる授業を展開していきたい。

# 〇●数学●〇

## 数学A

(領域ごと)

①数と式

概ね良好な結果であった

②図形

概ね良好な結果であった

③関数

概ね良好な結果であった

④資料の活用

良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

出題なし

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もともと正答率の高かった設問…1(1)
- ・もともと正答率の低かった設問…12
- ・もともと無解答率の高かった設問…1(2)

## 数学B

(領域ごと)

①数と式

良好な結果であった

②図形

大変良好な結果であった

③関数

概ね良好な結果であった

④資料の活用

良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

良好な結果であった

②短答式

良好な結果であった

③記述式

良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もともと正答率の高かった設問…2(1)
- ・もともと正答率の低かった設問…5(2)
- ・もともと無解答率の高かった設問…3(3)

## 分析

A問題・B問題を通して全体的に、良好な結果であった。A問題では、すべての項目で全国平均を上回ることが出来、一昨年度やや課題の残る結果であった「資料の活用」の平均正答率は特に大きく伸びた。

また、B問題ではすべての問題で全国平均を上回ることが出来、普段の学習の中で学習した内容を様々な場面で活用する力がついていることが分かった。

しかし、A問題では、累乗の計算や、絶対値についての問題など1年生で学習した基礎的な問題での正答率の低さが目立った。1年生で学習した基礎的な内容が定着していなかったようである。また、B問題では自分の言葉を用いて説明する問題の無解答率がとても高かった。普段の学習の中で、ペアや班の交流の中で、自分の意見を発言する機会だけでなく、自分の考えを文章にまとめる機会を作る時間も作ってきたい。

今年度の結果から、これからも基礎学力が身につけていない生徒のために習熟度別分割をより一層充実させ、生徒一人ひとりの学力にあった授業を展開し、生徒が自らの考えをまとめられる授業を展開してきたい。

## 理科

(領域ごと)	
①物理的領域	概ね良好な結果であった
②化学的領域	概ね良好な結果であった
③生物的領域	概ね良好な結果であった
④地学的領域	概ね良好な結果であった

(問題形式)	
①選択式	概ね良好な結果であった
②短答式	概ね良好な結果であった
③記述式	概ね良好な結果であった

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

### 分析

A問題・B問題を通して全体的に、概ね良好な結果であった。A問題では、概ね全国平均を上回ることができた。B問題では全国平均を下回る項目があり、普段の学習の中で学習した内容を様々な場面で活用する力を今以上につける必要がある。またA問題では、1・2年生で学習した基礎的な問題での正答率の低さがあり、小学校から中学2年生までの学習した基礎的な内容が定着していないことが判明した。また、B問題では自分の言葉を用いて説明することが課題に残った。今以上にグループ学習を拡充させ、学校全体で自分の意見を発言し、正しい考えを、クラス全体に共有する機会を増やしていきたい。

今年度の結果から、基礎的な知識を理解させるだけでなく、探求の過程を振り返り、新たな疑問を持たせる場面で、さらに深めようとする生徒の多様な疑問を受け入れ、自然事象への関心・意欲・態度の育成、主体的な探求の実現、新たな価値を創造する力を養っていきたい。

## ○●経年比較●○

### 全体的な傾向についての分析

昨年度は未実施だったため、一昨年度との比較になるが、国語A B・数学A Bにおいて、改善がみられ、全国平均を上回る結果となった。ただ、理科においては全国平均を若干下回り、前回実施の三年前より低下し、全国平均を若干下回る結果となった。教科の分析をもとに、改善を行っていききたい。

### 学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

どの教科においても、高位層が全国平均を大きく上回るのに対して、低位層の人数が増えるという、二層化の現象がみられる。高位層の維持とともに、低位層の支援を検討し実施していかなければならない。

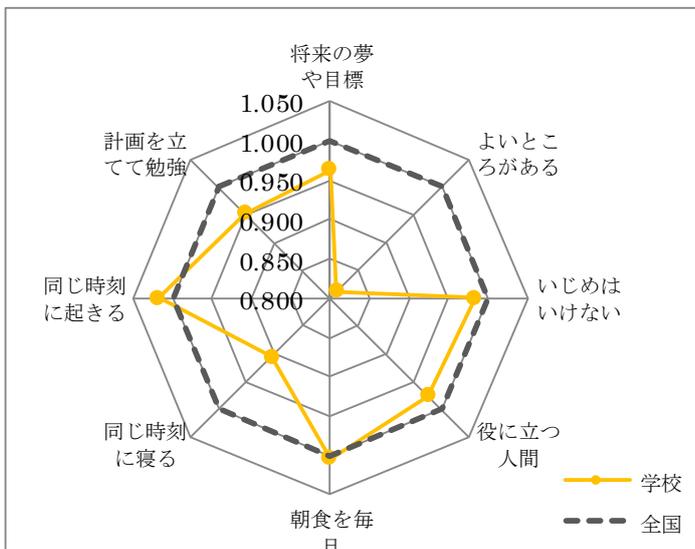
## ○●取組み●○

### 学力向上に関する取組み

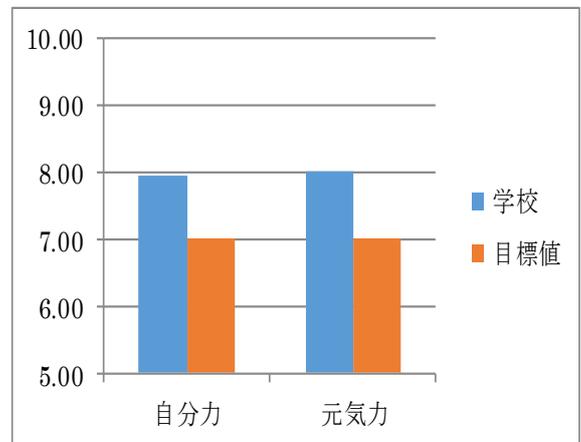
- ① 校内授業研修の実施 \*小中合同で実施
  - ・年間に1回は実施する。
  - ・年度ごとにテーマをもって取り組む。
- ② 公開授業週間の実施
  - ・指導計画の充実と授業力の向上を図る。
- ③ 生徒が主体的に学ぶ授業
  - ・ペア学習、班学習、学びあいの場面をつくり、互いに高めあう。
- ③ 家庭学習の充実
  - ・生活習慣の確立・保護者支援
- ④ 補習学習会
  - ・放課後学習会
  - ・長期休暇中の学習会
  - ・提出物点検（定期テスト・長期休暇後毎）
  - ・学習サポーターによる授業の入り込み
- ⑤ ICTを活用した授業づくり
  - ・タブレット端末型ノートPC、電子黒板の活用。
- ⑥ 数学科・英語科での少人数分割授業・習熟度別指導の実施
- ⑦ ユニバーサルデザインの授業づくり

# ○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は8項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『自分力』と『元気力』のみとなっています。

## 分析

今年度は全国平均よりも大きく偏った項目が見られる結果になった。

項目別にみると、

- ・朝食を毎日食べる、同じ時刻に起きるといのが、全国平均を超える結果になったことはよいことだが、同じ時刻に寝る、という項目が低く、同じ時間に寝られないにもかかわらず、同じ時間に起きている生徒が多いということになる。塾や習い事に通っている生徒が多いため、寝る時間が不規則になっているのだと考えられる。その反面、計画を立てて勉強する生徒が少なく、効率的に勉強をできているのかが不安である。
- ・将来の夢や目標、役に立つ人間、よいところがあるの項目が全国平均よりも低い。特によいところがあるの項目は非常に低く、自尊感情が低い生徒が多いことが考えられる。今後の活動や授業などで自尊感情を高めていきたい。

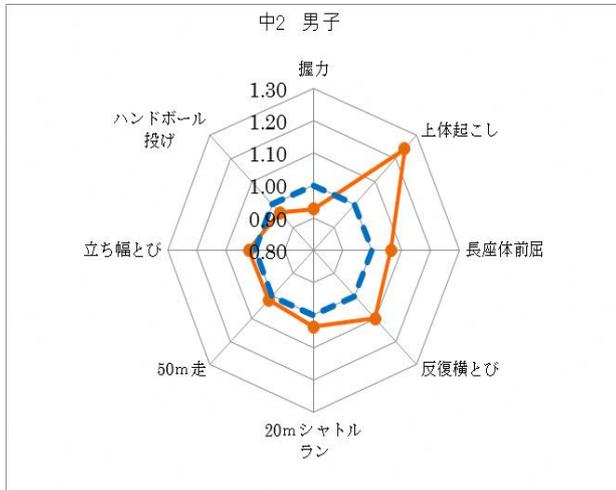
## 取組み

- ゆめ力 国際理解学習の充実 キャリア教育 (職業体験学習 高校調べ) 朝の読書タイムの実施
- 自分力 やる気スイッチ運動を利用して遅刻防止・チャイム着席の徹底。 支援を要する生徒の支援体制の充実。教職員の気づき→学年会→支援委員会→学校全体。
- つながり力 生徒会活動から、生徒総会や朝のあいさつ運動での発信。  
班活動、班長会議、班ノートの取り組み。  
小学校との連携の強化をする。中学校体験授業、部活体験で生徒会による学校紹介をする。  
いきいきスクールや小中合同研修会 (長期休暇中)。小中合同研究授業 (年1回)。生徒会と支援学級との交流会。運動会や祭りなど地域行事への参加。
- 学び力 各教科の授業や補習学習会等の充実 (生徒が主体的に学ぶ授業づくり、家庭学習の充実、ICTを活用した授業づくり、生徒の授業への入り込み)。
- 元気力 保健体育科、家庭と連携を図りながら、基本的な生活習慣の大切さを継続して指導する。

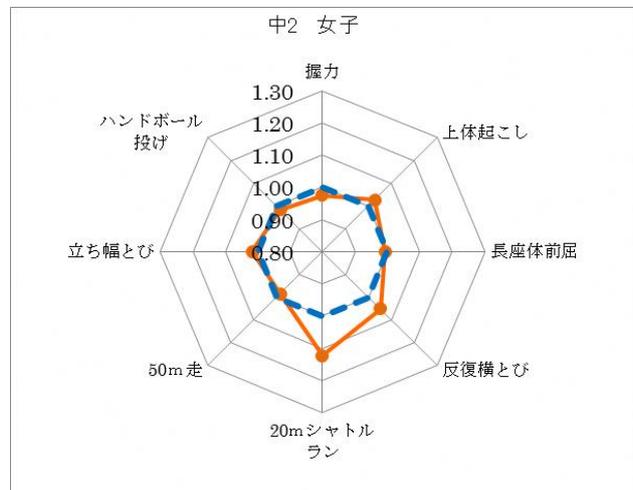
## (2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

### ○●体力●○

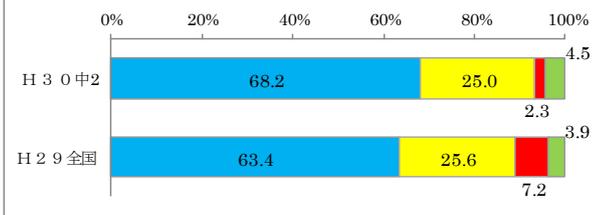
男子（中2）



女子（中2）



運動・スポーツが好きですか(中2男子)



運動・スポーツが好きですか(中2女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

#### 分析

男子の結果では全国平均と比べると、握力、ハンドボール投げが下回り、上肢は課題が大きかった。その反面上体起こし、反復横跳び、長座体前屈では全国平均を上回った。上体起こしは昨年同様大幅に上回っており、クラブ活動での体幹トレーニングや授業での補強運動で腹筋をしている効果が出ている。また、反復横跳びにおいてもクラブ活動でラダーやSAQトレーニングをしている成果が出ている。

女子の結果では20mシャトルラン、反復横跳びが全国平均を上回り、他の種目は全国平均となっている。昨年度と比較すると握力、ハンドボール投げが全国平均を下回っていたが今年は全国平均まで向上している。女子においても体育の授業での補強運動やクラブ活動の成果が出ている。

運動・スポーツを好きな割合においては、全国平均より男子は多く、女子においては苦手意識の多い生徒が多い。

#### 取組み

男子においては、握力、ハンドボール投げの数値が低かったので、補強運動の内容を変更したり、ドッジボールやソフトボールなど、ボールを投げる種目を取り入れて正しい投げ方の指導を行っていく。

女子においては、昨年度からの比較で成長が見えるので、今後も体育の授業や部活動での補強運動を取り組んでいく。また、苦手意識のある生徒が多いため運動の楽しさを感じることができるようになるため、生徒の興味関心を把握したり、生徒の現状に応じた授業内容にするなど、将来、運動に親しむ資質や能力を向上させる。